

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼこぼこ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月20日		～ 令和7年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年2月20日		～ 令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025/3/11		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多くの職員が特性のある子供を育ててきた経験を持っている。その経験を日々の活動に生かしている。	職員の経験で培われたノウハウを共有し、支援に生かす。計画した支援がうまくいかなかったときに別な案を考え即実行する。	経験の上に、研修から得られる専門的知識を加え、適切な支援を選択していく。
2	学校との連携 元教員の職員が、学校の先生とのつながりを生かし、子供の支援について情報共有ができる。	学校職員への挨拶を心掛け、子供の情報が聞き取りやすい関係を築く。学科発表会等学校行事へ参加する。	より積極的に利用児が関わる学校行事に参加し、些細なことでも情報共有できる関係を築いていく。
3	職員の子供に対する割合が多い。 デジタルデトックスを行うため、アナログな活動をするために職員数を確保している。	集団活動の中で人数を分割してグループ活動をしたり、個別対応が必要な場面では、同時並行で対応にあたっている。	自由時間に行う活動の充実を図り、身体を動かす活動を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所としての経験が少ない。	開所して間もないため経験が不足している。	事業所運営のノウハウを蓄積し、経験を積む。
2	支援の方向性が変わった時の職員間の連携。	シフト勤務のため、口頭伝達する時間が取りにくい。	全職員での会議を定期的に行い、方向性の確認と細かなニュアンスを伝えていく。
3	子供が活動する部屋の広さが狭く感じることもある。	室内での集団遊びの時思うような動きが取りにくい。	児童指導室のレイアウトを変更し、子供が活動するためのスペースをできるだけ確保できるよう工夫をする。